

V. 特記事項

1. 学生が主体となった地域テーマの掘り起こしと卒論研究による商品化

- 本学では地域に根ざした教育・研究を重視しており、学生に対する柔軟な支援体制を整えている。学生が自らの発想を原点とし、教員の科学的な視点からの指導を得て、商品化・販売を短期間で実現している。
- 学生のグループがサツマイモ品種「べにはるか」のブランディングを地域の農家と市民とともにを行い、この品種の栽培特性、加工特性、流通方法などに関して、複数の卒論としてとりまとめるとともに、地域の菓子店等と連携してスイーツ開発を行っている。
- 学生が日本最北端のお茶である村上茶に注目してハーブティーの開発に取り組み、教員の指導のもと、2期の卒論研究を通して、地域の製茶業者の協力を得てペットボトル化に成功した。地域の航空会社であるトキエアの機内飲料として活用されている。
- ブナの森など地域の自然環境から本学が分離した酵母について、卒論研究で育種、醸造特性解析を行い、地域の酒造メーカーの協力を得て、小規模ロットの日本酒の商品化に成功した。次年度以降は仕込み規模を拡大し、一般販売されると共に胎内市のふるさと納税返礼品に活用されている。

2. 留学生の支援

- 平成6(2024)年5月現在、本学には9か国から44名の留学生が在籍している。その支援体制として、2名の職員が配置されており、そのうち1名は外国人職員である。また、外国人の教員も2名在籍しており、留学生が相談しやすい体制を整えている。レポートなどの課題支援および日本語能力試験(JLPT)N1取得支援として、日本語教室を開講し、日本語能力向上を主眼とする学びの場を提供している。
- 留学生と日本人学生の交流会を年に2回開催し、日本人学生と交流する機会を提供している。また、新潟県国際交流協会からの委託を受けて、毎年「国際理解セミナー」を開催しており、留学生が母国や文化の紹介をすることで、留学生と地域の方々との交流を促進している。
- さらに、早期の段階から日本の就職活動事情や就労ビザ等に関する説明会を実施し、就職活動において個別に対応するなどの支援を行っている。

3. 本学で学んだ専門知識・経験を活かす分野への就職

- 本学ではこれまでに卒業生を3カ年にわたって送り出したが、多くが食料産業の広範な分野に就職している。学則第1条で大学の目的を「食と農に関する広い知識と技術を総合的に身につける」と定めているが、これに則った教育の成果と考えられる。
- 令和5(2023)年度を例に挙げると、全就職者の内、食料産業関連企業への就職者率は82%であり、業種としては、食品製造業28%、食品小売・卸売業25%、農業12% JA等農業支援・農業機械等関連企業7%である。このように、卒業生は、食の専門知識・技術を持ったジェネラリストとして広範な分野の企業に就職しており、社会貢献に繋がっていると判断できる。